

同志社大学 研究開発推進機構「研究センター」自己点検・評価報告書

2006 年 5 月 日

研究センター名 (英 文 名)	同志社大学ヒューマン・セキュリティ研究センター (Doshisha Research Center for Human Security)
研究センター長	(所属) 社会学研究科 (職名) 教授 (氏名) 岡本 民夫
設 置 期 間	2003年 4月 1日 ~ 2008年 3月31日

当該研究センターの以下に示す各項目について、1(不可)~5(良好)の5段階にて評価するとともに、研究経過・成果報告書に基づき、自己点検・評価を行ってください。

1. 共同研究組織の形成状況

共同研究のネットワークの形成状況、形成した共同研究組織の特徴、有機的連携、人材の育成についての点検・評価

評 価

3

【点検・評価 長所と問題点】

多彩な研究員を結集し、有機的連携をはかり、若手研究者の育成に努めている点は長所であるが、組織が大きすぎ、逆に研究グループ間の協力体制の構築という点では課題がある。

【将来の改善・改革に向けた方策】

研究員・客員フェローのグループ間の移動を検討するとともに、若手研究者を中心にしたグループ間の交流を強化し、共同研究体制の見直しを進めたい。

2. 当初研究計画の実施状況

当初の研究計画に対する進捗状況、研究成果の論文・著書、学会・会議での発表状況、研究会・講演会等の開催状況、研究費執行の妥当性についての点検・評価

評 価

4

【点検・評価 長所と問題点】

全体的には当初計画通りの進捗状況にあると思われる。論文・著書等の公表、研究会・講演会の開催状況・研究費の使い方についても問題はない。しかしヒューマン・セキュリティ研究の統合化・体系化に立つ観点からのアプローチが少ない。

【将来の改善・改革に向けた方策】

個別的研究の統合化・体系化に向けた取り組みの強化、この観点に立ってセンターの活動を見直す必要がある。

3. 教育・研究への貢献状況

同志社大学の教育活動との関連性、同志社大学の研究活動との関連性についての点検・評価

評価
4

【点検・評価 長所と問題点】

総合政策科学研究科の協力のもとにヒューマン・セキュリティ研究コースを開設した点は大いに評価されるべきと考えられるが、同志社大学の研究活動との連携という点では、十分とは言えない。

【将来の改善・改革に向けた方策】

ヒューマン・セキュリティ研究の成果を他の研究センターに提供したり、これとは逆に他の研究センターの関連する分野との協力体制の構築が求められる。

4. 専門的及び社会的な評価

関連する学会等での研究センターに対する評価、学内外に与えたインパクト並びに社会的な評価についての点検・評価

評価
4

【点検・評価 長所と問題点】

ヒューマン・セキュリティ研究の分野において、いち早くヒューマンセキュリティ・サイエンス学会の設立を主導し、この研究が21世紀の人類社会の最重要課題であるとの立場を築いた功績は大いに認められるべきであろうが、それがどの程度まで社会的に認知されているかは反省すべきである。

【将来の改善・改革に向けた方策】

他の関連する学会をはじめ、学内はもとより、学外および社会に向けて、本研究センターの研究成果の公表・発信に努めたい。

5. 新たな学問領域等の創出

研究活動による新たな学術的知見の創出、研究成果の活用の見通し及び副次的な効果についての点検・評価

評価
3

【点検・評価 長所と問題点】

新分野の開拓だけに、現在のところそれほど大きな学術的知見の創出は見られないが、個別のヒューマン・セキュリティ研究において大きな成果が得られた。しかし、ヒューマン・セキュリティ研究の統合化、ヒューマンセキュリティ・サイエンスの構築という点では不十分である。

【将来の改善・改革に向けた方策】

個別研究をどのように統合し、体系化していくかについて考えたい。それにはもちろん、個々のヒューマン・セキュリティ研究の充実化とヒューマン・セキュリティとは何かという基礎理論の構築が不可欠であろう。